

令和3年度 学校評価アンケート 集計結果(まとめ)

(実施期間) 令和3年11月26日～令和3年12月6日
(対象者) 児童生徒代表者(児童8名・生徒9名)
保護者(小学部、中・高等部)28名
学校関係者(療育福祉センター関係者)28名
教職員 33名

(方 法) 無記名によるアンケート

(回収率) 96%

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。評価していただいた内容や、評価の結果に基づいて、今後の取組に生かしていきます。まとめをご覧ください。

アンケートは、お願いした多くの方がご回答くださり、回収率が96%となりました。また、貴重なご意見もたくさんいただきました。真摯に受け止めて、よりよい学校づくりに向けて取り組んでいきます。



高知若草特別支援学校子鹿園分校

令和3年度学校評価アンケート 集計結果まとめ

- (1) 4段階評価をプラス評価(1, 2)とマイナス評価(3, 4)とし、判断できない(5)を加えて表示。
- (2) 全体合計において、以下の割合に基づいて、評価を行う。
- ① マイナス評価10%未満 プラス評価90%以上 ➡ (◎)
 - ② マイナス評価20%未満 ➡ (○)
 - ③ マイナス評価25%未満 ➡ (△)
 - ④ マイナス評価25%以上 ➡ (×)
 - ⑤ 教職員の判断できないが10%以上(教職員への取組の周知が不十分) ➡ (*■)
 - ⑥ 保護者の判断できないが10%以上(保護者への情報発信が不十分) ➡ (*◆)
- (3) 記述欄に書かれた意見や課題(抜粋)は、内容を要約したり表現を変えて記入している。
- (4) アンケート項目(※回答者によって質問項目がない項目もあり)
- 【学校生活全般】【教育課程の改善】【自立活動の指導の充実】【ICT活用の推進】
【療育福祉センターとの連携】【働き方改革】
- (5) 評価の未記入や重複しての記入がある場合は、そのままカウントしているため、合計が100%にならない場合がある。

【学校生活全般】

- Q 1 (保護者) お子さんは、学校生活を楽しいと感じていますか。(1)
- (教職員) あなたは、児童生徒が学校生活を楽しいと感じていると思いますか。(1)
- (学校関係者) 子鹿園分校の児童生徒は、学校生活を楽しんでいると思いますか。(1)

評価	全体			保護者			関係者			教職員		
	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない
◎	97.6	0.0	2.4	100.0	0	0	92.7	0	7.3	100	0	0
記述欄に書かれたそう思う理由												
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、「学校楽しかった」と言っている。(保) ・毎朝、学校を楽しみに言っている。土日は月曜日が待ち遠しいようだ。(保) ・登下校時の子どもの表情が明るい。(関 5人) ・先生との関係性が築けている様子がある。(関) ・学校の様子を楽しそうに話してくれる。(関 3人) ・時々学校へ行くのを嫌がる。(関) ・学校へ行くのを嫌がらない。(関) ・子どもたちが登校を嫌がらない。(関) ・個々の発達段階に応じた学習内容の提供がなされており、休むことなく登校できている。(関) 												
まとめと今後に向けて			<ul style="list-style-type: none"> ・全体として多くの方から肯定的評価をいただきました。引き続き、児童生徒が、「楽しい」「学校へ行きたい」と思える学校づくりに努めます。 									

Q 2 (保護者) 学校は、お便り等で学校の情報を分かりやすく伝えてありますか。 (教職員) あなたは(学校)は、保護者等に必要な情報を分かりやすく伝えることができていますか。												
評価	全体			保護者			関係者			教職員		
◎	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない
	90.3	8.2	1.5	95.8	4.2	0	/	/	/	84.8	12.1	3
記述欄に書かれたそう思う理由												
・学校の様子を毎日詳しく記入してくれていて、よくわかる。(保)												
まとめと今後に向けて			・多くの保護者が、肯定的意見ですが、教職員の10%以上が必要な情報の発信が不十分と感じています。本年度はHPを充実させることが不十分でした。学校の取組を保護者のみなさんに積極的に伝えするとともに、連絡等を迅速に、便利に使えるようにしていきます。									

【教育課程の改善】

Q 3 (保護者) 学校が行う教科等の指導では、お子さんの力を育てる授業ができていますか。(3) (教職員) あなた(学校)は、教育課程の改善につなげる視点をもって授業づくりや学習評価ができていますか。(3) (学校関係者) 学習面や日常生活の指導で児童生徒の状況に合わせた指導支援ができていますか。(2)												
評価	全体			保護者			関係者			教職員		
○	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない
	84.5	9.3	6.2	91.7	4.2	4.2	76.9	11.5	11.5	84.8	12.1	3
記述欄に書かれたそう思う理由												
<ul style="list-style-type: none"> ・「今日は個別あるかな、図工あるかな」と言っているいろいろな教科の話もしてくれる。(保) ・個別の指導計画をPDCAサイクルによって改善していく取組(対応)がなされている。(関) ・マンツーマンでのかわりができている。(関 2人) ・個別の課題や目標が明確。(関) ・自宅とのすり合わせ(日常生活)が見えない場合が時々ある。(関) ・センターと情報共有(回診、ケース会、リハ付き添いなど)できており、子どもに必要な姿勢、運動を理解し、協力的。(関 2人) ・その児のペースで定着していている。(関) ・中学生が小学生より学習時間が短いのでは。(関) ・若草本校の児童と比べるとできていると思えない。(関) ・算数の教え方が微妙。(関) ・学校の様子やセンターと連携しているところがが見えない。(関 2人) ・リハとの支援会や、適宜情報の共有がなされ子どもたちの今をよくとらえられている。(関) ・学校からの連絡など病棟経由で依頼することが多く、保護者との関わりが少ない。(関2人) ・学校・病棟での様子や外出・外泊時の子どもたちの様子など情報の共有がなされ個々の問題に深く細かく共有できている。(関 4人) 												
まとめと今後に向けて			・学校の指導に関して、関係者評価がマイナス評価と判断できないを合わせると20%を超えています。理由として保護者との連携が不十分という意見がありました。連携体制を見直していきます。また、教育課程の改善という視点での教職員のマイナス評価が、昨年度より20ポイント下がり、取組が浸透しつつあると考えます。しかしまだ、マイナス評価が10%以上のため、引き続き課題を共有し、取り組んでいきます。									

Q 4(保護者) 学校はお子さんの学習のねらいや評価について、個別の指導計画や通知票などで十分に説明ができていますか。(4)

(教職員) あなた(学校)は、単元・評価計画の作成をとおして、単元を見通した計画や評価の大切さを理解し、観点別の目標設定や学習評価、主・体・深の視点での授業改善ができていますか(4)

評価	全体			保護者			関係者			教職員		
	プラス評価	マイナス評価	判断できない									
○	88.8	9.7	1.5	95.8	4.2	0	/	/	/	81.8	15.2	3

記述欄に書かれたそう思う理由

・保護者の意向をよく聞いてくれ、それに対しての学校での取組や評価を十分に説明してくれる。(保)

まとめと
今後に向けて

・学習のねらいや評価について、保護者のみなさんからは肯定的意見を多くいただきました。しかし、教員は、学習のまとまりに視点を置いた目標設定や学習評価の取組に対してのマイナス評価が10パーセントを越えています。今後も、新学習指導要領に基づく育成したい力の設定や学習評価の充実を図り、家庭と十分に共有できるよう進めていく必要があります。

【自立活動の指導の充実】

Q 5(保護者) 学校は、お子さんの自立活動の指導について、目標や指導内容を十分に説明していますか。

(教職員) あなた(学校)は、流れ図の作成をとおして、児童生徒の自立活動の指導目標、内容を明らかにし、より実態に即した指導支援ができていますか。(5)

(教職員) あなた(学校)が行う教科等の指導において、自立活動の指導内容を意識し、単元・評価計画表に記載するなどして配慮した指導支援が行えていますか。(6)

評価	全体			保護者			教職員(5)			教職員(6)		
	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない
○	80.7	14.9	4.4	87.5	8.3	4.2	90.9	6.1	6.1	63.6	30.3	3

記述欄に書かれたそう思う理由

まとめと
今後に向けて

・全体としてマイナス評価と判断できないを合わせると15パーセント近くあります。特に、学校生活全体を通して行う自立活動の指導に関して、教員のマイナス評価が30%を越えています。引き続き特別支援学校の専門性の要である自立活動の指導についての理解を深め、学校生活全体の中で配慮した指導ができるようにしていく必要があります。

【ICT活用の推進】

Q 6 (保護者) 学校は、児童生徒の学びやすさを保障するために、パソコンやiPad、スイッチなどのICT機器を活用した授業づくりを推進していると思いますか。(6)

(教職員) あなた(学校)は、Google Workspaceの研修をとおして、アプリケーション(ドライブ、Meet, classroom, forms, Jambord, ドキュメント、スプレッドシート、スライド、カレンダー等)の中のいくつかの使い方を理解し、活用することができていますか。(7)

(教職員) あなた(学校)は、児童生徒の実態に応じた授業づくりのために、パソコンやiPad、スイッチなどのICT機器の活用に取り組みましたか。(8)

評価	全体			保護者			教職員(7)			教職員(8)		
	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない	プラス評価	マイナス評価	判断できない
○	82.1	14.1	3.8	91.7	0	8.3	69.7	30.3	0	84.8	12.1	3

記述欄に書かれたそう思う理由

- ・児童に対して、少しでも抵抗なくログイン等の操作ができるよう、授業の中で取り組んだ。(教)
- ・児童の学習の実態により、必要な物である。(教)
- ・ICTの研修が分かりやすく、活用してみようという意欲がわいた。機器類は使ってみないと良しあしが分からないのでどんどん活用すべき校内の事例もまとめていくとよい(教)
- ・校内のスイッチ教材の修理、スイッチ教材の作成・紹介を積極的に行うことができた。(教)

まとめと
今後に向けて

・GIGAスクール構想で、全児童生徒に一人一台端末が配置されました。これまでもICT機器は授業の中で日常的に活用してきていますが、本年度は、教員が新しい教育ツールを使えるようにすることが目標の一つでした。児童生徒の実態によって活用が進んだ学級もありますが、全体として、まだ、十分とは言えない状況です。今後も児童生徒の実態によって、活用する機器の検討や教員が活用できる力を高めることに引き続き取り組んでいきます。

【療育福祉センターとの連携】

Q 7 (保護者) 学校は、療育福祉センター(リハビリ部、病棟)との連携を生かして、日々の指導や自立活動の指導を行うことができていますか(7)

(教職員) あなたは、療育福祉センター(PT、OT、ST、病棟)と共有した情報やアドバイスを、学校生活や自立活動の指導の場面で活かすことができていますか。(9)

(学校関係者) 学校は、児童生徒について療育福祉センターリハビリ部と情報共有した内容や受けた指導・助言を学校での指導に生かすことができていますか。(3)

(学校関係者) 学校は、病棟生について療育福祉センター病棟と連携・協力して児童生徒や保護者への支援が行えていると思いますか(4)

評価	全体			保護者			関係者			教職員		
	プラス評価	マイナス評価	判断できない									
○	84.1	8.0	7.3	87.5	8.3	4.2	76.9	9.62	11.5	87.8	6.1	6.1

1名未記入

記述欄に書かれたそう思う理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・分校の教員とリハビリ部で児童生徒の年度目標をする合わせ、目標達成に向けて努力しており、困りごとや、わからないことは、リハビリ部に問い合わせがある。(関) ・支援に必要なことは情報共有ができています。(関) ・分校が授業にどのようにリハビリの内容を取り入れているか分からないので判断できない。(関) ・以前より、病棟との情報共有ができています。(関)・連絡会等で情報共有している。(関) ・時間割の中でリハビリがある場合は、頻繁に見学に来ている。(関) ・病棟の回診にも毎回参加しており、病棟生の状態を十分把握している。(関) ・療育センターの中で、先生と児童生徒と一緒に移動しているとき、児童生徒の表情が明るい。(関) ・学校の教員とリハビリセラピストが話している様子を聞くことがある。具体的な話をしている。(関) ・リハで聞いたストレッチなどを具体的に説明してくれる。(関) ・身体機能が低下しないようにリハビリでの訓練内容を学校生活(体育など)に取り入れている。(関) ・病棟で行っている訓練を学校の自立活動の時間にも取り入れてくれている。(関) ・リハビリの指導・助言はスムーズに対応してくれ、感謝している。自宅の様子や将来の生活に合わせていきたい。(関)・教員と情報交換する中で感じている。(関) 	
まとめと今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果を見ると、連携についてマイナス評価は10%未満でした。しかし、保護者、関係者、教職員とも、マイナス評価と判断できないを合わせると10パーセントを超えており、連携について内容のお知らせや取組の共有が不足しているのではないかと考えられます。連携の取組について、学校だより等で発信するようにしていきます。

【働き方改革】

Q 8 (教職員) 本年度は、授業空き時間の確保や校内清掃の負担軽減、各種会議の終了時刻の設定等に取り組みましたが、あなたは、昨年度に比べて教材研究の時間が増えましたか。

評価	教職員		
○■*	プラス評価	マイナス評価	判断できない
	72.7	15.2	12.1
記述欄に書かれたそう思う理由			
<ul style="list-style-type: none"> ・担当する役割によって業務の平準化が進みつつある。(教) ・会議が必要に応じて行われた。(教) ・空き時間が、日に20分でもあれば、余裕ができる。空き時間ができたことが、授業準備につながりよかった。(教) ・会議を厳選することで、ひとつひとつの会議に何を話すのか、何が大切なのかを考えて会議に臨むことができた。話し合いは大切だが、だらだらやっても仕方がない。時間を決めることで、内容も厳選されると思う。(教) 			
まとめと今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の結果と比べると、プラス評価が30ポイント以上増加しており、ワークライフバランスへの教職員の意識が高まってきていると考えられます。特に会議の精選や時間を決めての取組について、肯定的意見が多くありました。引き続き、教職員全員で適切な役割分担をしながら協働していく体制をつくり、働きがい、やりがいのある職場づくりに努めます。 		

○自由記述欄

10 これから特に学校に力を入れてほしいことは何ですか。 (保護者)	
アンケートの書かれた意見や課題(抜粋)	
○学校での指導を本人は少し厳しいと感じているようです。時間がなくいろいろやらなければならないけど先生には言えずプレッシャーに思っているようで涙を流すことがこの頃あります。	
5 今後子鹿園分校が、特に力を入れなければならないと考えること (学校関係者)	
○将来を見通し、保護者の思いを共有できること。とくに高等部卒業後の見通しについて。	
○教科教育	
○重度化への対応	
○コロナ感染リスクが高い間は無理かもしれませんが、学校で催しを開催したり、地域に出かけて行ったりと、子どもたちの強みを生かして自己肯定感を感じ取る機会が作れると問と思います。	
○センター入院のご家族とのやり取りや必要なことは、センターと共有しながらもセンターを仲介せず、積極的にやり取りしてほしい。	
11 これから特に学校が力を入れなければならないことは何だと考えますか。 (教職員)	
専門教育課程の向上	○肢体不自由特別支援学校としての教員の専門性向上。
	○学校と専門機関の連携(支援方法など)
	○学習内容の洗い出し。学習指導要領の内容の確認を必ず行う、という意識を持つこと。
	○子鹿園分校だからこそできる柔軟な教育課程があるといい。
進路・転入生への引継ぎ	○進路開拓
	○学部間の連携、引継ぎなど。
	○転出入児童生徒対応のスマート化
	○転校生に対する教員の確保
	○高学年への言葉のかけ方の仕方(生活年齢を意識する)
働く場	○子どもも大人もお互いを尊重し、持ち味を生かせる学校づくり。どうしたら子供の持てる力が伸ばせるのか、どうしたら保護者と情報共有して前向きに話し合えるか等、みんなが前向きに考えられる学校づくり。